

55 CT 勉強会を開催して

上尾中央総合病院

○金野 元樹

【背景・目的】

当院では今年度、看護師の知識向上と正常・異常の弁別が出来るようになることを目的とし、CT 勉強会を放射線技術科看護部の主催で年6回開催することにした。

勉強会参加者にアンケートを取り、今回の勉強会の有用性を調査し、チーム医療の中で我々診療放射線技師に何が求められているかを考察した。

【方法】

職員全員が閲覧することができる院内 Web から勉強会の案内を出し、参加を募った。

勉強会当日、参加者全員にアンケートを配布し、終了後に回収した。

アンケート結果をまとめ、解析した。

【結果】

・各勉強会に対する勉強会参加者の職種と人数

看護師以外では診療放射線技師、診療情報管理士、医師事務作業補助者、臨床検査技師の参加が見られ、特に診療情報管理士、また医師事務作業補助者の参加が多いことが分かった。

・各職種の勉強会参加理由

看護師…自分のスキルアップのため、業務上 CT 画像を見る機会が多いためなどである。

診療情報管理士…診療録の中から疾患名などの判断をするため CT 画像も見れるようになりたいなどである。

医師事務作業補助者…興味があったため、仕事に生かせると思ったためなどである。

・アンケート結果

アンケート結果よりほとんどの参加者が参考になり、業務に活かせるような勉強会を開催できたとと言える。

勉強会の内容を簡単に感じた参加者の多くは診療放射線技師であり、難しく感じた参加者は職歴の浅い看護師、あるいは医師事務作業補助者など普段あまり CT 画像を見ない方ではないかと考えられる。

【問題点】

勉強会の内容はやさしく設定したつもりであったが、今回のように多くの職種あるいは幅広い職歴の方が参加する勉強会の場合は難易度の設定が困難である。

各々の勉強会に対して開催回数が1回しかなかったために、参加できない職員が多数いた。

思っていたよりも看護師の割合が低く、今回の勉強会に対する認知度が十分でなかった可能性がある。

【今後の展望】

事前に CT に関する何の勉強会が良いかアンケートを取ることで、参加者の需要に答え、さらに認知度も上げることができる。

若手の診療放射線技師に講師を任せることで、自身の知識向上と学会などの発表前の事前演習になる。

【考察】

平成 22 年 4 月 30 日、厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」画像診断における読影の補助を行うことと、放射線検査等に関する説明・相談を行うことが推奨された。このことから、今回の勉強会が、自らが講師となって勉強会を行うことで画像診断に関する知識の向上と、患者に対する説明力の向上につながるのではないかと考えられる。

【結語】

改善点は見られるものの、全体的に好評価をいただけた勉強会を開催できた。

診療放射線技師が勉強会を開催する事により、他職種の方々の CT 画像に対する読影力が向上すると考えられ、また自身の画像診断に関する知識の向上と患者に対する説明力の向上につながると考えられる。

これらのことから、他職種に向けて勉強会を開催することはチーム医療の一つと言っても良いのではないかと考えられ、今後も診療放射線技師としてチーム医療に関わるためにも、積極的に開催していくことが望ましいと考えられる。